



登下校時の事故防止について

子どもたちを取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、子どもたちには安全に健やかに成長してほしいと願うばかりの毎日です。今回は、学校の登下校時の安全について考えてみたいと思います。

登下校時の交通事故対策は、小学校1年生に多い「飛び出し」を防ぐため、「止まる・見る・待つ」の徹底と、子どもの目線で安全を確認する通学路の事前点検が大切です。家庭では、具体的な危険箇所を親子で確認したり、防犯ブザーや明るい色の服を着用させたりするとよいですね。

具体的な対策は以下のことが考えられます。

1. 家庭でできる交通安全対策

- ☐ 危険の見える化：時間がある日に通学路を一緒に歩き、危険な場所（見通しの悪い交差点、車の抜け道など）を親子で確認する。
- ☐ 7さいのめせん：子どもの背の高さで車が見えるか確認する。
- ☐ 「止まる・見る・待つ」の徹底：横断歩道や信号機があっても、必ず一度立ち止まり、左右を見て、車が止まったことを確認してから渡ることを親子で約束する。
- ☐ 急な飛び出しの防止：道路に飛び出さない、道路の近くで遊ばないルールを親子で確認する。
- ☐ 明るい服装・防犯グッズの着用：ドライバーから見えやすい明るい色の服や反射材をランドセルや帽子につける。



2. 通学路の環境確認

- ☐ 見守り活動の実施：子ども会などで朝や帰りの見守りを行い、危険な箇所があるときは学校に連絡する。
- ☐ 通学路のチェック：お子さんが安全なルートで通っているか、信号や横断歩道を含めてときどき確認する。



3. 防犯・交通両面の対策

- ☐ 複数人での登下校：なるべく一人にならないよう、友だちや同じ方向に帰る人と一緒に、互いに見守れる距離で登下校するように教える。
- ☐ 防犯ブザーの携帯：ランドセルのすぐ手が届く位置につけ、定期的に使えるか試してみる。
- ☐ こども110番の家：子どもたちが身の危険を感じたときや、犯罪等の被害に遭遇又は遭いそうになった時に、緊急避難できる場所です。また、「トイレを貸して」「雨がやむまで待たせて」という時も、子どもたちが緊急時に駆け込んで助けを求めることができます。

1学期も終わりに近づき、もうすぐ夏休み。お子さんたちは学校生活にも慣れ、友だちとの関係も深まり、登下校中に追いかっこなどをする姿も見られるようになってきました。

また、夏休み明けの新学期が近づくと、ワクワクする気持ちや少しの緊張から、いつもより落ち着かない様子が見られることもあります。2学期が始まる前の夏休み中に交通安全について再確認し、お子さんを見守りながら、安心できるような声かけができればいいですね。



夏休み
南大立松み
趣頼み

